

令和5年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号		3 6	学校名		県立銚田第一高等学校			課程		全日制課程		学校長名		飯山 美都子				
教頭名		菅谷 則行										事務室長名		柳川 富裕				
教職員数	教諭	5 2	養護	1	常勤	3	非常勤 講師	1	実習教諭 実習講師 実習助手	1	事務職員	4	学校 用務員	4	ALT	2	合計	7 1
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計			合計クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	普通科		104	124	118	114	109	128			331	366						

2 目指す生徒像

高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備えた生徒 グローバルな視点と行動力を持った生徒

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	①グローバルな視点を持ち、国内外の各分野のリーダーとして未来を牽引できる人財の育成 ②地域社会の発展に核となって貢献できる人財の育成 ③高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備え社会に貢献できる人財の育成 ＜本校生の未来の例＞ ・公的な機関で社会を支える ・医療従事者として社会を支える ・起業して社会を支える ・企業内のリーダーとして社会を支える
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	①生徒一人ひとりの多様な学習ニーズに対応する ②生徒の主体的な学習活動、探究活動を重視する ③未来を牽引するための進路実現に向けた高度な学力を身に付けさせる （理工・医療・社会科学の分野のカリキュラム・マネジメントの充実やプロジェクトの実施）
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	①様々な分野に興味を持ち、主体的に探究しようという意欲のある生徒 ②地域の諸課題に関心を持ち、主体的な探究によりその諸課題を解決しようと努める生徒 ③主体的に自分の進路実現を目指し、壁を乗り越え、日々努力する生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	・思考力、判断力を要する内容となると習得した知識、技能を活用できない生徒が少なからず存在する。令和4年度は約9割の職員が授業の中でICT機器を活用したが、ICTの活用による考えの共有や課題解決能力向上に繋がる対話的、探究的な指導等が十分には確立されていない。 ・約6割の生徒が与えられた課題に取り組んでいる一方で、残りの生徒は消化が不十分である。生徒個々の強み、弱みを教師、生徒ともに理解した上での個に応じた課題設定システムの構築を模索中である。	・生徒の思考力、判断力の向上に繋がるICT機器の活用や対話的な学習形態を取り入れた課題解決重視型授業によるより深い学びに繋がる指導法の研究。 ・個別最適な課題の設定システムの構築。 ・ポートフォリオや振り返り等を通して生徒各々が自分自身の学習の理解度や学習状況についてメタ認知し、よりよい方向に修正するなど自らの学習について調整する力の育成。
進路指導	・約9割の生徒が大学進学を希望しているが、目的意識が希薄なまま安易に進路選択をしている生徒も見受けられる。 ・学校推薦型選抜や総合型選抜で早めに進路先を決めようとする安全志向が強く見られる一方で、難関大学にチャレンジする生徒、国公立大学の後期試験まで諦めずに受験する生徒も多い。 ・国公立大学合格者数に48名が合格し、県内国公立大学にも23名の生徒が合格した。 ・私立大学合格者数は延べ402名が合格し、都内難関私立大学(G-MARCH以上)に28名が合格した。	・自己の将来の在り方生き方を含めた進路意識の高揚を図り、多様な進路希望に対応できるよう単位制の利点を活かしたきめ細かい指導体制の構築。 ・大学入学共通テストについての情報収集、思考力を高める指導による得点力のアップ、および国公立二次試験や私立個別試験に向けた指導の充実。 ・最後まで第一志望を諦めず、主体的に目的意識を持った進路決定に繋がる支援。 ・小論文指導や面接指導の充実による様々な入試方式への対応。

別紙様式 1 （高）

生徒支援	・素直で真面目な生徒が多く、安心・安全な学校生活が送れている。しかし、受動的な生徒が多く、自立心に欠ける。 ・SNSの利用は適切になされているが、「ながらスマホ」など、マナー意識に欠ける生徒が見られる。 ・悩みを抱える生徒が増加傾向にあり、組織的な心のケアが必要である。	・自己指導能力の育成のための支援。 ・マナー・モラル・ルールを守ったSNSの適切な利用に向けた支援。 ・チーム絆一での支援。（場合によっては専門家に繋ぐなどの適切な支援。）
開かれた学校	・ホームページやフェイスブックで常時最新の情報発信を行っている。 ・スクールガイド等の作成やオープンキャンパス、学校公開授業を通じての広報活動を行っている。	・学校評議員制度の活用やホームページ、アンケートなどの広報広聴活動を工夫し、家庭・地域社会との連携を目指したより効果的な活動。
働き方改革	・令和4年度は、在校等時間が月45時間を超える教員は13名、月平均在校等時間は約33時間であった。ICTの活用や業務の効率化等により、働き方改革をさらに進めていく必要がある。	・業務内容や教材の共有化、ICT機器のより効率的な活用。業務の精選による無駄な業務のスクラップ化。 ・協働的業務運営により、教員が生き生きと働ける体制の構築。ラインケア、セルフケアによる高ストレスの軽減。

5 中期的目標

・ICTの活用を含めた教科指導の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを推進する。 ・確かな学力を身につけさせるため、カリキュラムの検証を図り、生徒の多様な希望に応える指導体制を充実させる。 ・キャリア教育や探究活動に重点をおいた教育を展開し、自己の生き方や在り方に対する考えを深め、様々な課題に向き合い、挑戦する力を育む。 ・学校行事や部活動・特別活動を通して、主体性や豊かな人間性を育み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成していく。 ・広報活動の充実や学校評議員制度の活用など家庭・地域社会との連携を図り、保護者・地域社会の期待に応える学校づくりを進める。 ・教職員一人一人が勤務時間についての意識改革に努める。
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
基礎学力・授業の質の一層の向上	・ICT環境を適切に活用して学習活動の充実を目指すとともに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直しを図る。 ・知識、技能および思考力、判断力等向上のための家庭学習習慣を身に付けさせ、平日の最低学習時間＝学年＋1時間を目指す。 ・基礎基本を定着させ（「課題テスト」「国語テスト」の年間計19回実施）、課題解決学習に繋がる知識、技能の充実および粘り強い学習姿勢の育成を図る。 ・教員間の授業参観と観点別評価の研究をなお一層推進し、職員の指導力及び授業の質の改善に努める。 ・指導力向上のため、職員が外部講習等に積極的に参加する。
個に対応した指導の充実	・対話的な学習における生徒観察やICT機器の活用等により、生徒の実態を的確に捉え、個別最適な学びの促進を図る。 ・手に届きやすい目標や題材の設定を行うなど授業の工夫を通して、習熟度別授業の指導を充実させる。 ・少人数授業は対話をベースとし、生徒一人一人が主体的に授業に取り組めるよう授業方法の創意工夫を行う。 ・振り返りやポートフォリオ等の蓄積により、各自の課題把握や自己の学習を調整する力を身につけさせ学習改善に繋げる自己指導能力の育成を図る。
進路意識・進路実績の一層の向上	・本校における進路指針の徹底を図り、職員一丸となって生徒の進路意識の高揚および進路目標の達成につなげる。 ・各年次の進路行事の意義を十分に理解させ、自己の在り方生き方について考えさせる。 ・生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させる。 ・大学説明会や入試分析会等に積極的に参加し、収集した正確な情報を進路支援に活用する。 ・国公立大学・難関私立大学の合格者数増を目指す。
特別活動・部活動の一層の活性化	・学校行事への積極的参加を促し、HR・生徒会・委員会の活動で主体的に取り組み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 ・部活動においては、限られた時間で工夫した指導を行い、県大会以上の大会に出場できる部や生徒数を増やす。 ・学校行事後に感想をまとめ、キャリアパスポート等を利用することにより、学びを蓄積するとともに振り返りを行う。
自己指導能力の育成	・生徒との面談を通して、個々の生徒の現状を把握し生徒理解に努め、適宜支援を講じ自立を促すことで、自主・自律の精神を育む。
学校評価の充実	・自己評価、外部評価の内容や評価方法・評価対象等を検討する。 ・学校評議員制度などを通して家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握し、生徒の探究活動と連携しながら新しいイメージを発信していく。 ・ホームページやアンケート等の広報広聴活動について、ICTを駆使してさらに工夫し、充実させ、学校を活性化させる。
働き方改革	・業務の目的と目標を明らかにし、効果的な教育活動を行う。業務の精選も行い、スクラップを積極的に推進する。 ・ICT活用等を推進し、事務作業の効率化や教材の共有化を進める。 ・教職員一人一人が自身の働き方についての意識を高め、仕事と私事ともに大切にしながら、生き生きと職務にあたることができるよう努める。
授業改善	・生徒による授業評価における「この授業を通して、知識や技能（技術）が身に付いた。」、「この授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた。」の質問項目で、「とてもそう思う」、「そう思う」の割合をいずれも80％となるよう授業改善を行う。